

寸言

住友精密工業株式会社
代表取締役社長
神永 晋



経済産業省「産業構造ビジョン」に寄せて

本年5月に開催されました第36回通常総会におきまして、副会長を拝命いたしました住友精密工業株式会社の神永 晋でございます。

すでにご承知の方もおられるとは存じますが、弊社航空機事業は先の大戦前から戦中にかけての航空機用プロペラの開発・製造に端を発し、戦後の航空機製造再開以降、防衛事業を中心に業容を拡大してまいりました。

近年は航空機用「降着システム」と「熱制御システム」を事業のCOREとし、防衛事業のみならず積極的に民間機事業に展開を図っているところです。

降着システムはいわゆる「脚」と呼ばれるショックストラット(緩衝支柱)を中心に揚降機構、ブレーキ制御、ステアリング制御を統合したもので、航空機を安全・スムーズに離陸・着陸させる重要なシステムです。カナダ・ボンバルディア社CRJ700/900用システムの開発・設計・製造を皮切りに現在はMRJ、Honda Jet等の設計・開発に参画し、中小型機向け降着システム・インテグレータとしての実力をつけるべく努力しております。

熱制御システムではエンジン用、空調用の熱交換器を主体に設計・開発に取り組んでおります。航空機が発生する各種の「熱」を制御し効率良く利用することで航空機の安全性を確保するだけでなく、省エネルギーに寄与するとともに、快適性をより向上させる重要な役割を担っています。弊社はIAE社V2500、ロールス・ロイス社Trentエンジン、ブラジル・エンブラエル社ERJ170/190空調システム等の開発に参画し着実に熱制御分野での地歩を固めて参りました。今後、対環境要請の観点から省エネルギー、低炭素対応としての熱制御機

器は重要な位置付けとなるものと確信し、新たな技術開発に注力しています。

さて、防衛省次期輸送機XC-2は試作機が無事納入され、次期哨戒機XP-1と合わせて、これら大型プロジェクトも量産・配備へと移行するものと思われます。しかしながら、防衛事業については今年度策定される新防衛大綱および新中期防の内容を待つ必要があるものの、中長期的には大きな成長を望むことは難しいものと想定されます。

一方、民間航空機需要については世界不況の影響も本年度で底を打ち徐々に回復すると予測され、また中長期的にも需要拡大が見込まれているところです。

このような状況を受けて、国内においては経済産業省殿から「産業構造ビジョン」が打ち出され、その中で有望な先進分野のひとつとして“航空機”の世界ビジネスに関して政府・国が積極的に支援していくことが宣言されています。

欧米諸国においては航空機産業を戦略的産業と位置付け国家が主導的にその育成を支援すると共に、企業側も機体会社のみならず装備品会社も離合集散を繰り返し、上位の会社はシステム・インテグレータとしての実力をつけてきております。

日本の航空宇宙産業がこれら海外メーカーと肩を並べグローバルに展開していくためには、会員会社それぞれの技術力や強みを統合した総合力が必要な時期にきており、当日本航空宇宙工業会の役割は今までも増して重要になるものと思われます。政府ビジョンを踏まえながら、航空宇宙産業の発展策として具体的提案を行いアクションをとって行くためにも引き続き会員各社皆さまのご協力・ご支援をお願いするところです。